

地域再生のシンボル 瀬戸内・直島

1988年です。30年近く前になりますが、ベネッセの福武總一郎さんから、直島を文化の島にしたいというお話がありました。それで、一緒に直島に行ってみると、島は工場から出るばい煙の影響などで、はげ山同然の状態。文化の島にするには、まず美しい海と緑を取り戻さなければなりません。それから30年にわたる闘いが始まるのですが、美術館やホテルの計画を進める一方で、はげ山に苗木を植え続けました。海を見下ろす高台に建物の大半を地下に埋設する形で建てた「地中美術館」は、

緑の力で 人とまちを元気にしたい

世界的に著名な建築家として知られる安藤忠雄さん。これまでに国内外で手がけた数々の建築は、その斬新な発想で多くの人に感動とインパクトを与えてきました。そんな安藤さんは、環境保全分野でも地道な取り組みを続けています。ここでは、香川県直島（なおしま）における環境再生とまちづくり、ならびに大阪の中之島一帯や大阪駅周辺で展開している都市の新しい魅力をつくるプロジェクトについてお話を伺いました。

安藤

神を受け継いだのが、2004年に発足した「桜の会・平成の通り抜け」。大阪の中心を流れる大川と中之島一帯は、以前から桜の名所でしたが、この貴重な都市財産をより充実させるため、新たに桜を植樹しようという活動です。この呼びかけに対し、市民から5億2000万円の募金が寄せられ、10年までに3千本の桜を植えることができました。また、中之島周辺の川沿いの風景を豊かにするために、1軒1軒異なる所有者と交渉しながら、ビルの壁面緑化も進めています。

こうした一連の緑化活動の中で、13年には二つのプロジェクトが完成しました。その一つが、大阪駅南側に建つマルビルの緑化。地上30mの高さまでツタなどの登はん性の植物を伸ばすとともに、足元の広場の壁面緑化も実施。大阪のランドマークを「都市の大樹」として再生し、環境都市大阪のシンボルとして世界に発信しています。もう一つは、梅田スカイビルの「希望の壁」。こちらは高さ9m・長さ80mの壁ですが、両面をプランターとステンレスネットで構成し、ここにツツジやマブキなどの中低木やツル性・登はん性の植物、多年草を植えました。壮大な緑の壁の風景は、訪れる人々に癒しの時間を与え、心と心をつないでくれることでしょう。いずれも大阪を思う志を持った企業の協力で実現したプロジェクトですが、こういった仕掛けをゲリラ的に行うことで都市の風景に刺激を与え、人々が集まる街角を新たににつくっていければと思います。

これまで私が関わってきたプロジェクトは、社会や地球環境という視点からすれば、地道で小さな活動です。しかし、こうした取り組みが人々の環境やまちづくりに対する意識に少しでも影響を与えることができれば、それはきっと社会を変える大きな力になると信じています。

今では生い茂った木々にすっぽりと覆われています。

また直島では、古い民家を修復・保存し、空間そのものを作品化して再生する試みも行われました。古い町並みにアートのネットワークができたことで、地域に新しい価値が生まれ「歴史的環境を今に生かしたまちづくり」の好例となっています。もう一つ忘れてならないのは、当初、私たちの取り組みに無関心だった島の方々が、来島者が増えるにつれ、自発的にカフェなどをオープンし、地域に活気が生まれたこと。まちづくりは住む人たちの元氣にかかっている……、そう実感しましたね。

昨年の秋、世界で一番古いといわれるバリの百貨店ボン・マルシェで、直島の活動をテーマにした展覧会が開催されました。瀬戸内海の景観の継承・点在するアート、民家の再生、苗木の植樹、そして地域住民の自発的な活動といった取り組みは、地域再生のお手本として世界から注目されています。

市民や企業が主導する 大阪での緑化活動

私が生まれ育った大阪でも、緑の力を借りたまちづくりが行われています。古くは「水の都」と呼ばれた大阪には、八百八橋といわれるほど多くの橋がありました。その大部分は市民の手で造られたもので、市民主導でまちづくりを行ってきた歴史があります。この市民参加の精

忠雄

さん

安藤忠雄（あんどうただお）
1941年大阪府生まれ。建築家、東京大学名誉教授。独学で建築を学び、69年安藤忠雄建築研究所を設立。代表作に「住吉の長屋」「大阪府立近つ飛鳥博物館」「光の教会」「淡路夢舞台」「フォートワース現代美術館」「東急東横線渋谷駅」などがある。表彰受賞は79年日本建築学会賞、95年ブリツカー賞、2005年国際建築家連合ゴールドメダル、10年ジョン・F・ケネディーセンター芸術金賞、文化勲章、15年グランデ・ウッフィチャレ章など多数。

*写真提供：安藤忠雄建築研究所



2000年、有害産業廃棄物の不法投棄事件「豊島事件」をきっかけに、安藤忠雄さんと弁護士・中坊公平さんが呼びかけ人となり設立した「瀬戸内オリーブ基金」。現在はNPO法人として活動している



年間40万人もが訪れるアートの聖地となった香川県直島。写真は景観に配慮し建物の大半が地下に埋設された「地中美術館」で、地下にも自然光が降り注ぐ設計になっている



大阪には桜で有名な「造幣局の通り抜け」があるが、こちらは大阪市中心部の大川から中之島に至る「平成の通り抜け」。市民の一口1万円の募金で完成した



T a d a o A n d o